

尚志高校 (福島県/私立)

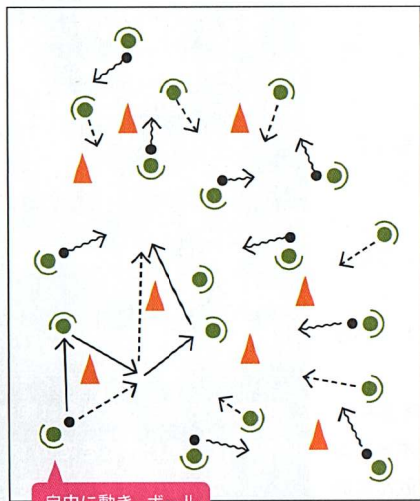
選手の個性を生かすパスサッカー



1 サッカー部が使用する第一グラウンドは、2012年に人工芝化が完了した 2 男子寮が隣接されており、ほとんどの部員がここで生活している 3 「みんなで楽しく」を指導のモットーに掲げる仲村監督(右)。トレーニング内容は厳しいが、選手たちに向けるまなざしは温かい

■ トレーニング 自由な発想で繋ぐワンツー

「今年はワンツーを多用したい」という仲村監督が取り入れているのがこの練習。コーンをランダムに置き、20人を入れて、そのうち10人にボールを持たせて自由にドリブルさせる。そしてコーンを相手に見立て、それぞれがタイミングを合わせながらワンツールのパスを繋いでいく。「コンビがトリオになり、トリオがカルテットになれば面白い」という発想の下、ワンツーでコーンをかわし、そのまま別の味方とワンツーを繋ぐなど、様々なアイデアを出し、イメージを共有していくのが目的だ。



自由に動き、ボールを持っていない味方とワンツーを繋ぐ

■ 俺たちが尚志高校を選んだ理由 肌で直接感じた雰囲気良さ



小野寛之 (3年/FW ◀市川カネツカSC)
「中学3年の7月ぐらいにクラブの中3チームと尚志の高校1年のチームとの練習試合があり、実際にこの学校に来たのが大きなきっかけですね。それ以降は、もう尚志への進路しか考えていませんでした」

茂木星也 (3年/DF ◀鹿島アントラーズJY)
「冬の選手権でベスト4になったのをテレビで見ると興味を持ちました。その前に震災もあり、「福島でサッカーをして、みんなに少しでも元気を与えることができれば」と思ったのも理由の一つですね」

佐藤凌輔 (3年/MF ◀Wings)
「進路について悩んでいた時に、Wingsの監督に『お前のプレーに合ったところがあるよ』と紹介され、練習試合に参加した時に『いいな』と思いました。実を言うと、冬の選手権に出ていたとか、そういった予備知識は全く持っていなかったんです(笑)」

■ チームデータ

震災を乗り越えチャレンジを続ける

1998年に仲村浩二監督を招聘してサッカー部が創設され、瞬間に県内屈指の強豪校へと成長。2011年度には東日本大震災の影響で一時的に練習ができない状況に追い込まれながら、苦境を乗り越えて第90回全国高等学校サッカー選手権大会で

ベスト4進出を果たした。今年度の部員数は124名。トップ、セカンド、サード、1年生の合計4チームで活動しており、キャプテンのDF茂木星也(3年)によると「みんな常に笑顔でサッカーをやっている、明るく楽しい雰囲気」だという。

■ 練習環境

人工芝グラウンド、隣には男子寮

サッカー部が活動する第一グラウンドは2012年5月に人工芝化が完了。週末は近隣のグラウンドを借りることもあるというが、平日は時間を区切りながら、全部員が第一グラウンドで練習する。スポーツトレーナー会社と契約し、ウエイトトレーニングやアジリティートレーニングも定期的に行っているという。また、グラウンドには男子寮が併設され、「県内出身者でも、よほど近くなければ入寮します」と仲村監督が語るとおり、部員の9割以上がサッカーに集中できる環境で生活している。

■ 選手たちが語る仲村浩二監督

近い距離感、同じ目線で接しやすい



茂木星也 (3年/DF)
「普段は笑顔で楽しい監督ですけど、メリハリがあって、やる時は厳しくやる。選手たちとは近い距離感で接してくれます」



佐藤凌輔 (3年/MF)
「僕らが接しやすくなるよう気を遣ってくれるし、同じくらいの目線で指導してくれます」

小野寛之 (3年/FW)

「いい時は褒めてくれるし、悪い時は指摘してくれる。練習中も的確なアドバイスをしてくれるので、指導を受けて納得できることばかりです」